

申込者数・合格者数とも減少し、 倍率は 2.3^{ポイ}_{ント} 低下の 14.2 倍！ 私立大出身の合格者数は、やや増加の 363 人

旺文社 教育情報センター 平成 19 年 7 月

人事院は、中央省庁の幹部候補（キャリア組）となる 19 年度国家公務員採用 I 種試験の合格者を先ごろ発表した。申込者数は前年度より 3,833 人（14.6%）減の 2 万 2,435 人、合格者数は 11 人（0.7%）減の 1,581 人となった。その結果、倍率（申込者数÷合格者数）は前年度の 16.5 倍→14.2 倍とダウンした。

また、私立大出身の合格者数は 363 人（前年度 349 人）で若干の増加となった。

試験の実施結果

① 申込者数

19 年度国家公務員採用 I 種試験の申込者数、つまり志願者数は、前年度（18 年度）より 3,833 人（14.6%）少ない 2 万 2,435 人であった。

② 合格者数

合格者数は前年度より 11 人（0.7%）減の 1,581 人であった。合格者は、合格年度からの 3 年度間は各府省等の採用対象となるため、合格初年度に採用されなくても、再度、国家公務員採用 I 種試験を受験し直す必要はなく、各府省等との面接などを経て、採用の可否が決まる。

19 年度の採用については、18 年度の合格者 1,592 人、及び再チャレンジ組（17・18 年度合格者で採用されなかった者）の中から、各府省での面接（合格発表日の翌日＜19 年 6 月 20 日＞から実施）などにより、約 620 人が採用される予定。

③ 倍率

申込者数・合格者数とも減少した結果、倍率（申込者数÷合格者数。以下、同）は 14.2 倍と、前年度より 2.3 ポイント低下した。

過去 7 年間の倍率の推移を見ると、13 年度 28.6 倍 14 年度 23.0 倍 15 年度 18.2 倍 16 年度 19.0 倍 17 年度 18.6 倍 18 年度 16.5 倍 19 年度 14.2 倍と毎年低下し、“緩和傾向”にある。

試験区分別の倍率は、法文系 19.2 倍、農学系 10.9 倍、理工系 8.9 倍となっている。さらに法文系をみると、「行政」の倍率が 100.7 倍と前年度より 27.8 ポイントの減少ながら、飛び抜けて高く、相変わらずの“狭き門”である（～ は表 1 参照）。

●19年度試験区分別実施結果

<表1>

試験区分	申込者数(人)	合格者数(人)	倍率
法文系	14,984 (17,237)	781 (783)	19.2 (22.0)
理工系	5,528 (6,721)	623 (631)	8.9 (10.7)
農学系	1,923 (2,310)	177 (178)	10.9 (13.0)
合計	22,435 (26,268)	1,581 (1,592)	14.2 (16.5)

注1. 倍率 = 申込者数 ÷ 合格者数

注2. 法文系は行政、法律、経済、人間科学の分野からなる。

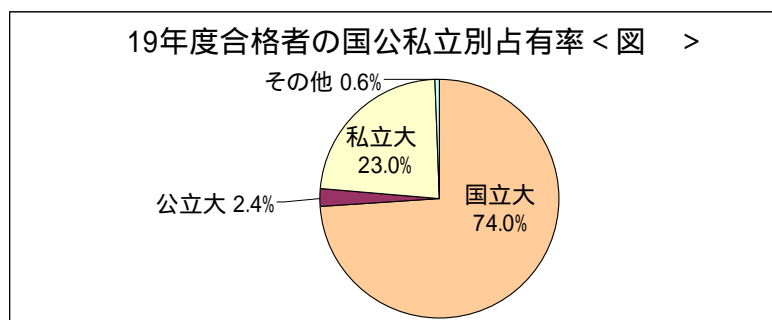
注3. ()内は18年度

合格者の状況

[国立大出身の占有率は0.6ポイント低下の74.0%]

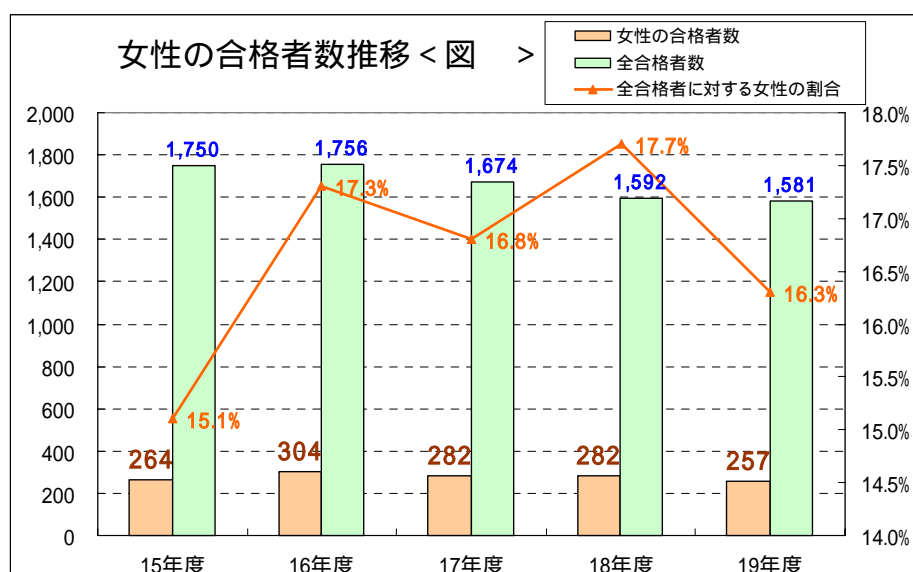
大学の設置者別に合格者数を見ると、国立大が1,170人と前年度より18人(1.5%)減少し、全体の74.0%(前年度74.6%)を占めている。公立大出身の合格者数は前年度より14人(26.9%)減の38人で、合格者占有率は前年度の3.3% 2.4%とダウンした。

一方、私立大出身の合格者数は363人(前年度349人)で若干増加した。合格者占有率は23.0%と前年度より1.1ポイントアップした(図 参照)。



[女性合格者占有率は1.4ポイント減の16.3%]

女性合格者数は、前年度より25人(8.9%)減の257人。また合格者占有率は1.4ポイント低下の16.3%で、過去5年間の推移を見ると、M字型のアップ・ダウンを示している(図)。



[金沢大、筑波大、千葉大などで、合格者の伸び目立つ]

出身大学別の19年度合格者数をみると、東京大の437人が最も多く、次いで京都大174人、早稲田大85人、東北大74人、慶應義塾大72人、九州大61人、北海道大58人など、ほぼ例年どおりの顔ぶれだ(表2参照)。ただ、東京大は合格者数が437人と前年度より20人減少し、合格者占有率も27.6%(前年度28.7%)にまでダウンしたが、2位の京大(合格者数174人、合格者占有率11.0%)を大きく引き離してトップの座をキープした。

また、合格者数全体が0.7%減少した中、次のような大学で合格者の伸びが目立つ。

金沢大(前年度比+137.5%) / 筑波大(同、+86.7%) / 千葉大(同、+85.7%) / 東京理科大(同、+77.8%) / 上智大(同、+66.7%) / 東北大(同、+54.2%) / 中央大(同、+52.2%) / 法政大(同、+30.0%)など。

一方、次のような大学では合格者減が目立った。

名古屋大(前年度比-42.4%) / 立命館大(同、-29.5%) / 東京工業大(同、-21.7%) / 神戸大(同、-20.7%)など。

●国家公務員採用I種試験／出身大学別合格者数一覧 <表2>

	大学名	19年度 (人)	18年度 (人)	増減 (人)		大学名	19年度 (人)	18年度 (人)	増減 (人)
1	東京大	437	457	-20	14	筑波大	28	15	13
2	京都大	174	177	-3	15	東京農工大	23	19	4
3	早稲田大	85	89	-4	16	神戸大	23	29	-6
4	東北大	74	48	26	17	金沢大	19	8	11
5	慶應義塾大	72	73	-1	18	名古屋大	19	33	-14
6	九州大	61	59	2	19	岡山大	16	16	0
7	北海道大	58	62	-4	20	広島大	14	16	-2
8	大阪大	46	44	2	21	千葉大	13	7	6
9	東京工業大	36	46	-10	22	法政大	13	10	3
10	中央大	35	23	12	23	首都大学東京	12	13	-1
11	一橋大	34	39	-5	24	上智大	10	6	4
12	東京理科大	32	18	14	25	横浜国立大	10	9	1
13	立命館大	31	44	-13					

注1. 19年度の10人以上を掲載。注2. 首都大学東京には旧・都立大出身者を含む。

[法文系は大学、理工・農学系は大学院が主流]

19年度の合格者占有率を試験区分・学歴別にみると、表3のようになり、法文系は「大学」、理工・農学系はともに「大学院」がそれぞれ合格者占有率が最も高く、主流となっている。

●19年度合格者の試験区分・学歴別占有率 <表3>

試験区分	学 歴	合格者占有率 (%)
法文系	大 学	72.3 [79.1]
	大学院	26.9 [20.8]
	短大・その他	0.8 [0.1]
理工系	大 学	30.2 [26.6]
	大学院	69.5 [73.1]
	短大・その他	0.3 [0.3]
農学系	大 学	38.4 [42.7]
	大学院	60.5 [57.3]
	短大・その他	1.1 [0]

注1. 「大学」は大卒、大卒見込み・在学等を、「大学院」は修士・博士課程及び専門職大学院の修了者・中退者をそれぞれ含む。

注2. 合格者占有率の [] 内は18年度。